

こころん だより

2021
春号
Vol. 16



こころん



特集1

多様な性のあり方を認めあう
「にじいろのまち」を目指して
～県内初! 高知市パートナーシップ登録制度～

特集2

こころんの
社会見学

広がれ! 女子硬式野球
～きらっと光る県内高校生たちの挑戦～

多様な性のあり方を認めあう 「にじいろのまち」を目指して ～県内初！高知市パートナーシップ登録制度～

文：高知市 人権同和・男女共同参画課



取組①

「高知市パートナーシップ登録制度」

高知市では、2021年2月1日から「パートナーシップ登録制度」をスタートさせました。

パートナーシップ登録制度とは、同性カップルなどがお互いを人生のパートナーとして相互に協力し合う関係であることを申請し、登録された方々に市が登録証を交付する制度です。婚姻のような法律上の権利や義務が生じるものではありませんが、パートナーシップ関係の方が利用できる行政サービスの拡充に向け、まず市営住宅への入居について準備が進んでいます。

この制度は2015年11月に東京都渋谷区と世田谷区で初めて導入され、その後、全国に広がっています。高知市は、全国の自治体で75番目、四国では6番目の導入となりました。この制度をきっかけに、多様な性のあり方に対する理解が広がっていくことが期待されています。

● 四国のパートナーシップ登録制度 導入自治体 (2021年2月1日現在)



取組②

「にじいろのまちシンボルマーク」を作成

高知市の観光地でもあり、市民に親しみのある「はりまや橋」をモチーフに、橋の高欄部分を人に見立て、性の多様性を表すレインボーカラーの橋が人と人をつなぐ架け橋になっている様子をイメージしデザインしたシンボルマークを作成しました。パートナーシップ制度や今後の啓発にも活用していく予定です。



街中などでこのマークを目にされた時は、市民・県民の皆さまもぜひ、多様な性のあり方を尊重する気持ちを思い起こしていただければと思います。

取組③

「にじいろのまち・職員ハンドブック」の策定 職員研修の実施

さらに高知市では、市職員が多様な性のあり方に関して正しく知り理解を深め適切に行動するために、また職員自身がどのような性のあり方であっても安心して働き続けられる職場づくりのため、基本的な姿勢・行動についての考え方をまとめた「にじいろのまち・職員ハンドブック」を策定しました。

また、職員への浸透を図るため、まずは管理職対象に職員研修を実施するなど、誰もが自分らしく安心して暮らせる「にじいろのまち」の実現に向け、市一丸となって取組を推進しています。

「高知市にじいろのまち宣言」とは

高知市は、性的指向・性自認を理由とするあらゆる差別や偏見をなくし、誰もが安心して暮らせるまちを目指し、令和2年11月に「高知市にじいろのまち宣言」を行いました。

「にじいろのまち」とは、「性の多様性」を虹のグラデーションになぞらえ、一人ひとりの性のあり方が尊重され、誰もがそれぞれの個性や生き方をお互いに認め合い支え合うまちを表現したものです。その実現には、多様な性のあり方への理解を広めていくことや、性的マイノリティに寄り添い、困難や不安を軽減していくことが必要です。

「にじいろのまち」を目指す高知市の取組についてご紹介します。

高知市パートナーシップ登録制度 Q&A



Q. どうやって申請するの？

A. 以下のような流れです

電話で申請日を予約 → 2人で来庁して書類を提出
→ 後日、登録証を交付

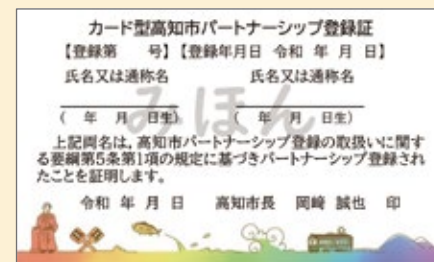


Q. どんな人が対象なの？

A. パートナーシップ※の関係にあり、次の要件をすべて満たしているお二人です

- ☐ 成年である ☐ 高知市民である ☐ 配偶者がいない
- ☐ 近親者でない ☐ 養親子の関係でない
- ☐ 登録申請される方以外の方とパートナーシップ関係にない

※ お互いを人生のパートナーとし、相互の協力により、継続的な共同生活を行っている、または継続的な共同生活を行うことを約束している二者の関係



詳しくは高知市
ホームページで
ご確認ください！



▶ この記事に関するお問合せ先

高知市 人権同和・男女共同参画課

☎088-823-9449

HP <https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/124/>

広がれ！女子硬式野球

～きらっと光る県内高校生たちの挑戦～

社会のあらゆる場面、分野で女性が躍進する中、スポーツの世界においても女子選手の活躍の場が広がっています。その一つが野球。高知県では平成25年に室戸高校、平成31年に高知中央高校で女子硬式野球部が立ち上がり、活動を行っています。今回は高知中央高校でこころんがお話を聞いてきました。



◀ お話してくれた人
高知中央高校女子硬式野球部
監督 西内 友広 さん



高知中央高校での練習の様子

野球は男子だけのものじゃない！

硬式野球はこれまで女子の競技としてはあまり認知されてこなかった経緯があり、現在、高校の硬式野球部は男子が全国に3,932校※1あるのに対し、女子は36校※2とわずかです。小学校で野球をやっていた女子は、中学、高校と上がるにつれて競技から離れざるを得ない環境でした。

これに対し高知県で最初に行動を起こしたのが、県立室戸高校です。平成25年、県立高校における全国初の女子硬式野球部が創部され、私も2年間、指導に関わらせていただきました。その後、私は高知中央高校に赴任し、ここで県内2校目となる女子硬式野球部の創部に立ち会いました。

高知中央高校の女子硬式野球部は、現在部員24人。全員、野球が大好きで、大きな可能性を秘めた選手たちです。

※1：公益財団法人日本高等学校野球連の加盟校数(令和2年度)

※2：全国高等学校女子硬式野球連盟の加盟校数(令和2年度)

女性が長く競技を続けられる環境を

女性が野球を続けて行くためには、それができる環境を整えていく必要があります。大学では女子硬式野球部は全国に10大学※3、クラブチームも少ないものの、プロ野球界では令和2年に埼玉西武ライオンズが、令和3年には阪神タイガースが女子チームを創設し、女子選手にも将来への夢や選択肢が広がりつつあります。

男性は、歳をとっても野球をやっています。女性の方が平均寿命も長いこの社会で、私は女性にこそ長く野球を楽しんでもらいたいと考えています。例えばお母さん、おばあちゃんが野球をやっていたら、子どもたちはもっと野球に親しむ機会が増えるでしょう。これはどの競技でも同じです。女性がスポーツを続けられる環境整備が、ひいてはスポーツ人口の増大や、人々の健康増進にもつながるのではないのでしょうか。

※3：全国大学女子硬式野球連盟の加盟大学数(令和2年度)

女性の指導者を増やしたい

スポーツの世界でもう一つ大切なことは、女性の指導者を育てることです。今はどの競技においても男性指導者ばかり。それを変えていきたいと思っています。

そこで当部では、練習もできるだけ選手同士の教え合いを中心に行っています。これは結果的に競技力の向上にもつながりました。人に教えることのできる選手を育て、彼らが将来、指導者となってさらに女子野球を広めてくれたら嬉しいですね。

コロナ禍の中でも やるべきことをやり続ける

オリンピックイヤーになるはずだった2020 年は、新型コロナウイルス感染拡大により様々な大会が中止となりました。感受性の高い高校生たちにとって大きな成長のチャンスが流れてしまったことは非常に残念でしたが、「じゃあ大会がないからもう野球しないの?」とか「なんで野球やっているの?」と自分たちに問いかける機会にもなりました。

選手たちは、「日々、本気のパフォーマンスを発揮できる自分たちになろう!」という結論を出し、毎日練習でやるべきことをやり続けています。その姿に、未来の兆しを感じています。



性別や年齢に関わらず、
誰でもスポーツを
長く楽しめることが理想だよね!

質問こころん
野球への想いを
聞いてみたよ!

仲間と一緒に全力で!
2年 氏原まなか 主将

小学3年生から始めた野球を高校でも続けられて、今とても充実しています。今年度は夏の大会が中止となり、代わりに交流大会が開催されましたが、強豪校相手にいい試合ができたこと、全国の女子野球の仲間に出会えたことは大きな刺激になりました。

こちらも注目!

女子野球の先駆者 高知県立室戸高校 女子硬式野球部



今年度は地域内で連合チームを編成して活動

「女子野球を高知から」のかけ声のもと、平成25年に創部。高知ファイティングドッグスの協力を得て、プロの指導も受けながら日々練習に励んでいます。また地元住民による応援団も発足するなど、地域の元気を引っ張る存在でもあります。

高知中央高等学校 女子硬式野球部

所在地：高知市大津乙324番地1
TEL:088-866-3166 FAX:088-866-1400
<https://www.kochi-chuo.ed.jp/>



第3回 ハートフルセミナー

講演会「インターネットと人とのかかわり合い ～突然、僕は殺人犯にされた～」を行いました

実施日：令和3年1月24日(日)14時～16時 / 参加者：51名
講師：スマイリーキクチさん(タレント)
会場：高知県立人権啓発センター6階ホール

講師のスマイリーキクチさんは、身に覚えのない殺人事件の殺人犯であるとインターネットのサイトへ書き込まれ、長きにわたる誹謗中傷に遭われました。否定しても続く書き込みは被害予告にまでエスカレートし、警察や弁護士に相談しても解決には10年以上もの時間がかかりました。講演ではその軌跡を語られるとともに、日々進化するネット上での人権侵害の事例や情報リテラシーについて、また、SNSは速効性と拡散力を持ったツールであり、利用する際の注意点など、具体例を用いながらわかりやすく説かれました。参加者のみなさんからは多くの感想をいただきました。

情報リテラシーを高めよう

- ✓ 誰が書き込んだかを疑う
- ✓ 発信者の過去の投稿を確認
- ✓ 確固たる証拠がわかるまで情報を寝かす
- ✓ 記事より広告の数を確認

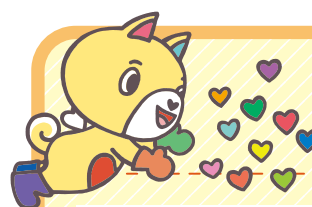
💡「ひま潰し」は「ひと潰し」

💡「正義感」は「正疑惑」

〈スマイリーキクチさんの講演資料より〉

参加者の声より

- 一度情報を流してしまえば二度と消えないインターネットの使用にはそれなりの責任が伴うということを忘れないでいたいです。
- 現実社会とネット社会はすべてつながっていること。自分の行動すべてに責任を。相談された時に寄り添うことが一番必要というのが本当によかったです。
- 迫力のあるお話。聴き入りました。明るい語りでしたが、話は重かった。いろいろな意味で「言葉」の持つ力を考えさせられました。
- 「正疑惑」という言葉は忘れないです。自分よがりになって正義をふりかざすことで人を傷つけている人もいます。デマを流す人もやめてほしい。発信する人は責任を取れないことは発信しない、不満のはけ口にしないことです。情報リテラシーを徹底してネットの誹謗中傷が少しでも減るといいなと思います。
- コロナも恐いですが、今日聞いたような被害(中傷)は人間が起こす恐さで、より恐いと思いました。



ココるん紙芝居利用の感想をいただきました!

😊 高知市立高須小学校 水江美和先生より

私は、校内で人権教育の推進に携わっています。今年度、人権週間の取り組みとして、「ココるん」の紙芝居を活用させていただきました。紙芝居のテーマは「多様性」、台詞は参加型でわかりやすく、子どもたちの反応を見ながらアレンジもできます。また、パペットと合わせて演じると、特に1・2年生は喜んでくれました。紙芝居をめくるたびに、「ココるん」はいろんな人と出会います。子どもたちも、「ココるん」といっしょにまちをたんけんしながら「いろんな人とともに生きていること」に自然と気づくようになります。

「ココるん」は子どもたちにとって、親しみやすいキャラクターです。いろんな意見を聞くための大きな耳とあたたかな心、多様性の尊重を表すカラフルな色、「ココるん」が教えてくれることはたくさんあります。「ココるん」との出会いを大切に、これからも子どもたちとともに人権について考えていきたいと思っています。



ココるん紙芝居を体験できます

読み聞かせ動画をYoutubeで配信中! 📺



★ 紙芝居「ココるんといっしょにまちたんけん」は、「じんけんライブラリー」やオーテピア高知図書館などで貸出しています ★

じんけんライブラリー情報

「じんけんライブラリー検索」はこちら

所蔵図書・DVDの検索ができます。ぜひご利用ください。
<http://www.kochi-jinken.or.jp/lib/>



じんけんライブラリーでは、図書(専門書からコミックまで幅広く所蔵)やDVD・VHS、人権啓発パネルの貸出を行っています。

新着図書紹介



命がけの証言 (ワック)
私の身に起きたこと とあるウイグル人女性の証言 (季節社)
清水 ともみ 著

中国によるウイグル人への弾圧を告発するノンフィクション漫画。



わたしはオオカミ 仲間と手をつなぎ、やりたいことをやり、なりたい自分になる
アビー・ワンバック 著 寺尾 まち子 訳 (海と月社)

“女子サッカー界のレジェンド”が、古いルールを捨て、悔いなき人生にする「クール」で「しなやか」な方法を語る。「胸躍るスピーチ」と世界で絶賛された名門女子大バーナードの卒業式祝辞から生まれた本。



ゲーム・ネットの世界から離れられない子どもたち 子どもが社会から孤立しないために(子どものこころの発達を知るシリーズ10)
吉川 徹 著 (合同出版)

ゲームやネットとのつき合い方はどこまでが健康な使用で、どこからが問題となるのか。自身もゲームに親しんできた著者が、診察室の内外で現代の子どもたちと接してきた経験を通して、ポジティブな方向から考察します。

新着DVD紹介

- 今そこにいる人と、しっかり出会うー同和問題ー (テーマ:同和問題/24分/東映株式会社)
- 「違い」を「力」にするためにー職場のコミュニケーションのヒントー (テーマ:外国人、障害者、ハラスメント、同和問題/26分/東映株式会社) 「違い」を新しく「力」にしていけるために、どんなコミュニケーションのあり方で実現していけるのか、事例をとりあげながら考える。
- 映画「風は生きよという」 (テーマ:障害者/81分/「風は生きよという」上映実行委員会) 病気などのさまざまな理由により人工呼吸器を使用して生活を送る人々を描いたドキュメンタリー。
- 映画「彼らが本気で編むときは、」 (テーマ:性的指向・性自認/127分/藤ジェイ・ストリーム) トランスジェンダーの女性とその恋人、孤独な少女の共同生活を描く。 ※日本語音声ガイド、バリアフリー日本語字幕付
- 映画「砂の器」デジタルリマスター2005 (テーマ:ハンセン病/143分/松竹株式会社) 原作:松本清張/出演:丹波哲郎、加藤剛



にほんでいきる 外国からきた子どもたち
毎日新聞取材班 編 (明石書店)

外国人労働者の受け入れ拡大のなか、就学状況が不明な子どもが少なくとも1万6000人いることが判明した。文部科学省による全国調査の実施など、行政を動かす原動力にもなった毎日新聞の連載の書籍化。



私のおま、素直に生きる
人間関係に効く!暮らしのヒント39
森田 汐生 著 (主婦の友社)

どう話せば、思いが伝わるか?自分も相手も大切に人間関係を築く「アサーティブ」の視点で、さまざまな人間関係の問題を解消するヒントを39項目紹介。解決方法を具体的に解説。



マンガで知る「人権のこと」 パネル貸出します!

- タイトル：マンガで知る「人権のこと」
- テーマ：11の身近な人権課題
- 規格：W738mm×H1040mm
- 枚数：11枚 ■ 制作年度：令和2年

★ テーマごとの貸出も可能です。
★ センターHPで閲覧することができます。



SNS等を活用した情報発信を行っています

高知県人権啓発センターでは、FacebookやTwitterなどのソーシャルメディアを活用して情報発信を行っています。ハートフルセミナーや「じんけんライブラリー」の新着情報などを発信していきます。YouTubeチャンネルでは「オンラインじんけんフェスタ」のアーカイブや、こころん紙芝居の動画も配信しています。ぜひご覧ください。

フォローよろしくお願いいたします！



Facebook



Twitter



YouTube

ご利用案内

出張
します人権研修のための
出前講座

講師派遣料無料

自治体や地域住民・企業・団体などが実施する様々な研修や学習の場に、講師を派遣します。多彩なテーマやプログラムがあります。

貸出
します「こころん」の
着ぐるみ・紙芝居

利用無料

人権について楽しく学び、身近に考えてもらえることを願い、こころんの着ぐるみやオリジナル紙芝居とパペットのセット貸出しを行なっています。

オリジナル紙芝居+パペット ▶



6F

ホール (収容人員 270名 机併用の場合は180名)

講演会、研修等のイベントにご利用ください。

利用時間 9:00~21:00 (年末年始を除く)

基本使用料(平日)			平日時間外	土・日・祝祭日
午 前	午 後	全 日		
9:00-12:00	13:00-17:00	9:00-17:00	1時間あたり	
8,650円	11,570円	18,210円	4,330円	

● 冷暖房使用料 … 1時間 / 620円

● 時間区分には、準備・片付けに要する時間を含みます。



6F ホール

5F

じんけんライブラリー (利用無料)

人権に関する図書、視聴覚教材、パネルの貸出を無料で行っています。ホームページ内の「じんけんライブラリー検索」では人権課題別の蔵書検索もできます。

利用時間 月曜日~金曜日(祝祭日・年末年始を除く) 9:00~17:00

利用方法 ● 初回ご利用の際に、利用カードを発行します。
● 直接ご来館できない場合は、送付もいたします。(送料は利用者負担)

	図書	ビデオ・DVD	パネル	団体図書
貸出限度	5冊以内	2本以内	3セット以内	50冊以内
貸出期間	2週間以内	2週間以内	1ヵ月以内	1ヵ月以内



団体図書貸出(こころんブック便)について

小・中学校、高等学校ほか、地域や団体、イベント開催などにあわせて、様々な人権問題についての図書の団体貸出を行っています。ご希望の図書について、お気軽にご相談ください。



5F じんけんライブラリー

詳しい情報は
ホームページを
ご覧ください!



kochi-jinken.or.jp

4F

視聴覚室 (利用無料/収容人員 48名)

人権に関する研修等にのみ使用できます。

「こころん」は
高知県人権啓発センターの
マスコットキャラクターです



公益財団法人

高知県人権啓発センター

ホームページ

www.kochi-jinken.or.jp

[事務局] 〒780-0870 高知県高知市本町4丁目1番37号 高知県立人権啓発センター 5階
TEL: 088-821-4681 / FAX: 088-821-4440 / E-Mail: center@kochi-jinken.or.jp
〔開所時間〕月~金 8:30~17:15 (祝祭日・年末年始を除く)



●とさでん交通 バス・路面電車「高知城前」で下車・徒歩3~5分

vol.
162021
Spring

令和3年3月発行(年4回発行)

発行:公益財団法人高知県人権啓発センター
制作・印刷:有限会社ファクトリー